

「健康」「環境」「観光」の3つの柱で目指す 上山型温泉クアオルト事業

3つの顔を併せ持つまち

「上山は清潔で空気がからりとしたところである。美しい宿屋が高いところにある、楽しいな家々には庭園があり、丘を越える散歩道がたくさんある。ここは日本でもっとも空気がからりとしているところの一つだといわれる。もしここが外国人の容易に來られる場所であったら、美しい景色を味わいながら各方面にここから遠足もできるから、彼らにとって健康的な保養地となるであろう」。この言葉は、明治11年にイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが上山市を訪れ、その旅をまとめた著書『日本奥地紀行』に記した言葉です。この言葉にある通り、本市には熊野岳を主峰とする蔵王連峰をはじめとした自然環境と開湯から555年

を迎えた歴史ある温泉、少人数から団体まで幅広い旅行者に対応したさまざまな宿泊施設があり、市街地の中心に観光のシンボル上山城がそびえ、江戸時代の名残りとどめる武家屋敷が軒を連ねます。このように本市は、城下町、市場町、温泉町の3つの顔を持つ全国的にも珍しい市であります。

滞在型健康保養地を目指して

本市では、平成20年度の内閣府「地方の元気再生事業」を足掛かりに、「健康」「環境」「観光」の3つの分野を柱に据え、市民の健康増進や交流人口の拡大による地域活性化を目的に滞在型の新たなクアオルト(健康保養地)を目指した「上山型温泉クアオルト事業」に取り組んでおります。

具体的には、健康ウォーキングをはじめとして、地元食材を生かしたクアオルト弁当、旅館でのヘルシーなクアオルト膳、ラ・フランス果汁を使用したクアオルト館などの商品開発も進められています。また、市内5カ所に疲れた足を気軽に癒やせる足湯があるほか、健康ウォーキング参加者は市内に7カ所ある公衆浴場の無料利用券、もしくは市内12カ所の旅館の温泉にワンコインで入れるサービスが受けられるなど温泉を利活用し、さらには、地元医師などの地域医療とも連携しながら滞在型の健康保養地を目指し、多岐にわたる分野で事業を展開しています。



華やかな日本舞踊で市内を練り歩く「踊り山車」

れている、楽しく歩き、運動効果の顕著な「気候性地形療法」の手法を導入し、クアオルト健康ウォーキングとしてバリエーション豊かなプログラムを開発するとともに、専任ガイド「蔵王テラポイント」を養成し、約50名が活躍しています。

クアオルト健康ウォーキングの取り組みの一つとして、本市の持つ特徴的な自然や地形を生かし、より効果的な運動療法として確立するため、医学的な効果検証を重ねています。また、札幌市立大学と共同で、気候性地形療法の心理的効果を検証するなど、医学的な見地に立つことで、さまざま



自然を歩くクアオルト健康ウォーキング

行われているウォーキング手法との差別化を進めています。

平成23年4月からは、市民や観光で訪れた人が「いつでも、だれでも、一人でも」参加できる年間360日開催の「毎日ウォーキング」を実施しています。さらに、地元企業や健康保険組合との「企業コラボウォーキング」、旅館街の裏手にある葉山コースでは、市民に旅館宿泊者も合流し、朝食前にさわやかに散歩をする「早朝ウォーキング」が行われ好評を博しており、今では温泉街の名物イベントに成長しています。私自身もほぼ毎日の日課としてこのコースでの早朝ウォーキングと公衆浴場での入浴を行っております。また、職員にも健康意識が波及しており、ランチタイム前のウォーキングに多くの職員が取り組んでおります。

こうした活動が認められ、平成24年3月に日本ヘルスツーリズム振興機構の『第4回ヘルスツーリズム大賞』を受賞するなど、多方面から評価をいただいています。

10年先の未来を見据えて

少子高齢化が進行する中で、市民が将来に渡って安心して暮らし

ていくために、生活習慣病などを予防し、温泉・食などの自然環境を生かした健康づくりを推進し、健康寿命の延伸を図ってまいります。そして、10年後の未来を見据えて、日本を代表する滞在型温泉保養地として心と体がうるおうまちを目指していきます。

学省より東日本で唯一指定を受けている蔵王坊平アスリートヴィレッジを有していることから、アスリートの長期滞在にも力を入れており、引き続きトップアスリートの育成にも尽力してまいります。今後も選抜と集中を重ねながら、市民一人一人が自信と誇りを持って、そして故郷を離れた方々にも誇れるまちづくりを推進し、市民と一緒に「元氣なかみのやま」づくりに努めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 241km²
- ◆ 人口 3万3036人
- ◆ 世帯数 1万1356世帯

〔将来都市像〕「健やか交流都市 かみのやま」

〔まちの特徴〕蔵王連峰の裾野に位置し、奥羽三楽郷の一つに数えられ、豊かな自然と温泉を有するまち

〔特産品〕さくらんぼ、ぶどう、ラ・

フランス、紅干し柿、こんにやく料理
上山特産ワイン

〔観光〕上山城、武家屋敷、斎藤茂吉記念館、羽州街道榎下宿、蔵王坊平アスリートヴィレッジ

〔イベント〕上山城まつり、蔵王坊平クロスカントリー大会、かみのやま温泉全国かかし祭、民俗行事カセ鳥踊り山車



上市市長
横戸長兵衛



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「住んで良かったと心から思える 元気なまち」を目指して

はじめに

強い日差しを受け、太陽に向かつて咲き誇る55万本のひまわり――座間市の夏の風物詩です。

このひまわりから生まれた妖精が市のマスコットキャラクターの「ざまりん」。各種のイベントなどで、まちのイメージアップに貢献してくれています。

そして、東京から40km、横浜から20kmの首都近郊に位置しながらも、豊富な地下水を利用した独自の水道事業を営むなど、恵まれた自然環境の中で個性あるまちづくりを進めています。

キーワードは市民との協働

現在の第4次総合計画を貫く姿勢は「市民との協働」です。

この総合計画の策定段階におい

のみに適用されていた定期借地権を活用した国有地の貸し付けを医療施設にも導入する全国初の事例として認めていただき、初期費用の軽減ができることになりました。こうして2つのハードルを越えた今、病院事業者の公募、選定、そして具体的建設へと着実なステップを重ね、目標としている平成28年春の病院開業はクリアできると確信しています。

さらに、この跡地利用には以前からの継続課題であった老朽化が進む消防庁舎を建て替え、新消防庁舎を建設する計画を位置付けています。東日本大震災の教訓も含め、災害時の拠点となる新消防庁舎の建設は一層重要な課題として認識しており、その機能や施設内容などを十分に精査しながら、具体的建設に着手していきたいと考えています。また、新消防庁舎を返還地内に建設することにより、先述の誘致病院との連携が容易になり、市の救急体制の充実につながるものと期待しています。

座間の未来へ向けての重要なテーマである「キャンパス座間」の一部返還跡地の有効活用。今後とも、これを実りあるものとして成就さ

ては、地域別懇談会の開催やはがきによる意見募集などにより約3500名、5000件を超える市民の方々からのご意見、ご提案をちょうだいし、可能な限りそれらを計画に反映させていただきま

した。市政運営の根幹をなす総合計画をさまざまなチャンネルを活用した市民協働により策定できたことは、今後の施策推進、事業展開において、市民協働が標準化され、ブラッシュアップされる礎になると確信しています。既にさまざまな政策決定の場において実感を感じているところです。

基地返還跡地に病院を誘致

本市には、在日米陸軍司令部・第一軍団(前方)司令部が置かれてある「キャンパス座間」(市域面積約62ha)が所在しており、陸上自衛隊

せる決意です。

公共施設を良質な資産として次世代へ

本市は、昭和30年代後半からの高度経済成長とともに首都圏近郊のベッドタウンとして急激に人口が増加したまちの一つです。

そして、公共施設の整備も集中的に行われましたが、その公共施設の多くが、これから一斉に大規模な改修や改築を必要とする時期を迎えようとしています。税金が伸び悩み、少子高齢化の影響から扶助費の増大が予想される中で、これらの公共施設の保全や整備が、市にとって大きな財政負担となることが危惧されます。

そのため、いわゆる「ファシリテイマネジメント」(資産運用)によって、現在の公共施設を良質な資産として整備・活用し、いかに次世代に引き継いでいくか、その具体的方策を検討していかなくてはなりません。

その第一歩として、本市の公共施設の運営状況やフルコストを含め、施設の現状と課題を明らかにする必要があります。本年3月に「座間市公共施設白書」を取りま

の施設部隊が昭和46年から共同使用しています。

この「キャンパス座間」の一部約5.4haの返還が平成23年10月に日米間で基本合意されており、返還後の跡地を市の財政負担を極小にする中で有効に活用すべく具体化に取り組んでいるところです。

その中心となるのが「病院の誘致」。市民が急病の際に市外へ緊急搬送される割合が74%を超えている現状から、救急医療体制の充実のため、そして総合計画の策定過程においても市民の切実な要望として受け止めさせていただいた総合的病院を誘致するものです。

これまで病院誘致には超えなくてはならない高いハードルが2つありました。一つは、本市が属する二次医療圏の病床過剰地域の解消、すなわち病院建設に必要な病

とめました。

今後は、この白書を基礎資料とし、適正な施設配置と効率的な管理運営の在り方を市民の皆さまとともに考え、模索するとともに、施設再編などを具体的に進めるための公共施設活用指針の策定に着手してまいります。

結びに

現在の市政を取り巻く環境は決



市内中学校演奏会で指揮する市マスコットキャラクター「ざまりん」

床数の確保でした。これについては、神奈川県をはじめ各方面において本市の救急医療体制の窮状をご理解いただき、平成25年度からの第6次神奈川県保健医療計画の中で240床の不足病床数を確保することができました。

そして、もう一つは返還される用地の取得費用で、補助制度がない病院用地をすべて市の一般財源で賄うことになれば、何十億円という大きな財政負担になります。これをどう処理するか悩みましたが、幸い、財務省の格別のご理解をいただき、従来は福祉関係施設

して楽観を許すものではありませんが、私は座間市を「住んで良かったと心から思える元気なまち」にするため、さらには、第4次総合計画に示す将来像「ともに織りなす活力と個性きらめくまち」を実現するため、自らが先頭に立たせていただき、今後とも誠心誠意・粉骨砕身・不転の姿勢で、市民皆さまとともに歩ませていただく所存です。

プロフィール

- ◆ 面積 17.58km²
- ◆ 人口 13万573人
- ◆ 世帯数 5万7969世帯

- 〔将来都市像〕ともに織りなす活力と個性きらめくまち
- 〔まちの特徴〕人と自然が共生する首都圏有数の名水のまち
- 〔特産品〕やまといも、ひまわり米、どんぶり豆腐、座間産地粉うどん、座間納豆、「ざまみず」アルミボト



座間市長 遠藤三紀夫



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

Active Arida 誇れるまちづくりのために

有田市ってどんなまち？

有田市。この地名から皆さんは何を連想されるでしょうか？ 生産量日本一の「有田みかん」、はたまた高校野球ファンには懐かしい思い出として、公立高校で初めて甲子園春夏連覇(昭和54年)の偉業を成し遂げた箕島高校や高校野球史上最高試合として今も語り継がれている箕島高校vs星稜高校の延長18回の熱戦等を思い浮かべる方も少なくないのではないのでしょうか。

全国の各自治体にはいろんなまちの特色があると思いますが、まずはわがまちの特色や強みを少し紹介させていただきます。本市は紀伊水道に面したりアス式海岸の突出した和歌山県の紀中地域に位置し、黒潮の影響を受け、比較的温暖な気候を有しています。また、

市のほぼ中央を流れる有田川は弘法大師(空海)ゆかりの霊場高野山を水源とし、紀伊水道に注ぐ延長94kmの二級河川であり、その河口

地域に当たるわがまちは自然の恩恵を受け、古くから有田みかんや漁獲量日本一の「太刀魚」漁といった第一次産業が盛んであります。また、先人が築き上げた文化や歴史を辿っていきますと、京都伏見

大社創建よりも約60年ほど古くに創建された日本最古の糸我稲荷神社や日本で初めて除虫菊栽培に成功し、世界で最初の「棒状蚊取線香」が誕生するなど「まちの誇り」は数多く存在します。一方でまちの雇用、財政に大きな影響をもたらす

基幹産業として石油精製工場を有しているのも特徴の一つです。昭和14年7月に航空機用燃料と航空機用潤滑油の製造を目的に「準国策会

社」として設立された工場が約3年前、今度は政府のエネルギー施策により存続の危機に立たされたのも何か因果とも言えるのではないのでしょうか。会社と地域が一体となって取り組んだ結果、この危機を脱した地域力も誇れる一つであると思います。

まちの意識改革

さて、私は今から約4年半前の平成20年9月、36歳で市長に就任し、現在2期目に入っています。先述のとおり、わがまちは一次産業と主要産業がうまく調和しながら比較的恵まれた環境の中、発展を遂げてきました。しかしすべて順風満帆に事が運んだわけではなく、どの自治体も課題を抱えているように、本市も例外ではありませんでした。例えば地場産業の価

格低迷や後継者問題があります。そういう状況下に加えて景気の低迷期真っ只中での市長就任でありました。とにかくこの閉塞感漂うまちを何としても活気付け、元氣を取り戻さなければならぬ、そのためには「情熱に勝るものはない」という強い思いの中、「なぜ必ず成る」を自身に言い聞かせ、とにかく「やれることはなんでもやってみる」の思いのもとスタート地点に立ちました。まちには「何をしてもダメだ」というネガティブな空気が漂っていただけに、とにかくこの雰囲気を変えたい。とにかくこの

霧困気を払拭するため、いろんな仕掛けをしながらわがまちに目を向けてもらいたい注目してもらおう、そしてまちが認められることで市民の方々の気持ちも元気で明るくなる活路を見いだす、そのためには失敗を恐れずとにかく可能性のあることは何でもやってみよう、そんな意気込みで覚悟を決め走り出しました。有田市からの挑戦の始まりです。

地域ブランドを世界に発信

市の面積36・92km²、人口約3万人余りの小さなまちの誇りとして私はずまず目を付けたのが市内全体世帯の1割の方々が何らかの形で従事するみかん産業でした。「まちの特徴を最大限生かす」ことをまちづくりの原点とし、フランスやイタリアのような地域ブランドでまちづくりを進めていくというイメージを持っていました。

まずは有田みかんの再ブランド化というコンセプトの下、食の専門家にお墨付きをいただき市が認定する「原産地呼称管理制度」を立ち上げました。この制度は生果では全国初の画期的な仕掛けでありました。また、加工品についても



「ノエル・アリダ・スイーツコンテスト」の様子

いろんな方々のアドバイスをいただきながら、みかんのアイス、ワインの開発、商品化や有名パティシエの協力をいただき、有田みかんを使ったクリスマスアイスをイメージ

行政の基本を大切に

本市の主要施策をいくつか紹介させていいただきましたが、行政の基本は「市民の生命と財産を守る」との思いでこの軸足はぶれることなく行政運営を行っております。市長就任後、何はさておき取り組んだことは保育所、小・中学校の耐震化でした。「子どもたちの命を守る」ために、道路整備もほとんどトップしたことで批判もありましたが、4年間で100%達成させたことはまちの誇りでもあります。

誇りを実感してもらえ まちづくり

地方のまちが独自の特色を生かし、小さくともキラリと輝きを放ちながらお互いを高め合う、その集合体として豊かな日本国が形成

されるものと私は確信しております。そのための努力を惜しまず、すべてはまちのために情熱を傾注しなければなりません。まちづくりは行政だけでなく、民間企業や市民の方々の協力をいただきながら「協働」をキーワードに進めています。新たな取り組みが市民の方々に「まちがよくなった」と実感してもらえている

プロフィール

- ◆ 面積 36・92km²
- ◆ 人口 3万0871人
- ◆ 世帯数 1万1838世帯

- ◆ 将来都市像 Active Arida
活力あふれる明るい未来のために、日本一元気で生き生きとしたまち (Active City)
- ◆ 積極的に地域活動に参加する市民 (Active Citizen)
- ◆ 未来を見据えた計画の確実な実行 (Active Plan)

【まちの特徴】海・山・川といった素晴らしい自然の恩恵を受け、紀伊水



有田市長
望月良男



道に面し、有田川河口に広がる歴史と伝統を感じさせるまち

【特産品】有田みかん、太刀魚、みかんジュース、かまぼこ・天ぷら、えびせんべい

【観光】有田川の鶴飼、得生寺の会式、地ノ島海水浴場、みかん狩り、糸我稲荷神社(日本最古)

【イベント】紀文まつり(花火大会)、ノエルアリダ・スイーツコンテスト、有田みかん海道マラソン、みかんの花街道ウォーク

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「住み続けたい、住んでよかった山口市」の実現に向けて

はじめに

山口市は、山口県の中央部に位置しており、平成17年、22年の合併を経て、瀬戸内海に面する南部地域から中央部の山口盆地、そして西中国山地の西端に当たる北部地域と、広大な面積を有する風光明媚な都市です。南部の海水浴場、北部のスキー場、本州南限のりん



日本三名塔の一つに数えられる「瑠璃光寺五重塔」

この産地や車えび養殖発祥地、山陽路随一の豊富な湯量、良質な泉質を誇る「湯田温泉」など、多様な特色と資源を有しています。

室町時代には、大内氏が京に模して、まちづくりを行い、大内文化が開花しました。また、幕末の文久3(1863)年に藩主毛利敬親が藩庁を萩から山口に移してからは、明治維新の策源地となりました。

市内の中心市街地には「瑠璃光寺五重塔」「龍福寺本堂」をはじめ、幕末の志士たちが倒幕の密議を行った「枕流亭」や「十朋亭」など、大内文化や明治維新に関する史跡が数多く残されています。

また、昨年8月には、ロンドンオリンピック卓球女子団体戦で、本市出身の石川佳純選手が日本卓球界史上初の銀メダルを獲得すると

いう大変喜ばしい出来事がありました。石川選手には本市初の市民栄誉賞を贈らせていただきました。

後期まちづくり計画の策定

平成25年3月に策定した山口市総合計画後期まちづくり計画は、合併後最初の総合計画において取り組んできた「協働によるまちづくり」と「広域県央中核都市づくり」を引き続き政策の柱とし、広大な市域の中で、市民一人一人が幸福感や安心感を実感できる地域社会を実現するとともに、「地域力」や「都市力」を強化していくこととしています。

協働によるまちづくり

平成21年に「山口市協働のまちづくり条例」を施行し、地域自治の拠点施設として「地域交流センター」を21の各地域に設置するとともに、

地域内のさまざまな団体が連携、協力して地域づくりに取り組む「地域づくり協議会」の組織化に取り組み、税を地域に還元する形として、市税の約1%に当たる約2.4億円の「地域づくり交付金」を創設しました。

地域づくり交付金の拡充や地域担当職員の配置などにより、各地域が抱えるさまざまな課題を解決するための自主的な取り組みが行われるようになってきています。

本年は、地域づくりをさらに推進するため、人材育成や地域づくりの専門的な支援を行う「地域づくり支援センター」を設置しました。今後、山口らしい地域力の強化を図っていきます。

広域県央中核都市づくり

山口県は、地理的に福岡、広島という中枢都市圏の狭間にあることに加え、中核となる都市がなく、中小都市が分散した都市構造であるため、都市間連携を通じた地域

資源の有効活用や経済循環の活性化など、市域を越えた人口60万、70万人規模の「広域経済・交流圏」を形成することが重要であると考

えています。その中において本市は、求心力を発揮し、圏域の発展に貢献できる「広域県央中核都市」の創造を進めています。

中でも、最重要プロジェクトとして取り組んでいるのが、「新山口市ターミナルパーク整備」です。

JR新山口市駅は、広域交通の結節点ではあるものの、駅や駅前広場の利便性・機能が不足し、また周辺に広大な低未利用地が存在するなどの課題を有しています。そ



世界に向けた情報発信を続ける山口情報芸術センター [YCAM]

のため、まずは先導的基盤整備として、平成28年度の供用開始に向け、駅の橋上駅舎化や南北自由通路の整備、駅前広場の整備などを進めています。

また、これからの都市、圏域の成長、発展をけん引する産業交流拠点として、事業所などの集積を進め、新たなビジネス拠点の魅力を高める市街地形成を図っていくこととしています。

山口市からの情報発信

本市が新たな価値の創造・発信を目指す、平成15年に設置した山口情報芸術センター「YCAM」は、

情報技術をテーマに、オリジナル作品の制作・発表を行うなど、国内でも類を見ない公共施設です。また、教育普及活動にも力を入れ、オリジナルワークショップを開発、実施しています。こうしたワークショッププログラムが評価され、平成24年には第6回キッズデザイン賞で最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。現在は、本年7月6日から始まる開館10周年記念事業に向け、アーティストック・ディレクターの坂本龍一氏を中心

に準備を進めているところです。さらに本年7月31日から8月8日の間、「第16回日本ジャンボリー」第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー」が山口市阿知須き

らら浜で開催されます。約1万5000人を超える青少年とその関係者を温かくお迎えするととも

プロフィール

- ◆ 面積 1023.31 km²
- ◆ 人口 19万5345人
- ◆ 世帯数 8万2281世帯

- 〔将来都市像〕ひと、まち、歴史と自然が輝く交流と創造のまち山口
- 〔まちの特徴〕豊かな自然に包まれ、歴史と文化の薫るまち
- 〔市町村合併〕平成17年10月1日、旧山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町が合併、平成22年1月16日、阿東町と合併
- 〔特産品〕大内塗、山口萩焼、外郎、車えび、りんご、阿知須くりまさる、



山口市長 渡辺純忠



- やまのいも、徳地牛、阿東牛、はなっこりー
- 〔観光〕湯田温泉、瑠璃光寺五重塔、常栄寺雪舟庭、龍福寺本堂、八坂神社、今八幡宮、枕流亭、十朋亭、菜香亭、一の坂川、SL山口号
- 〔イベント〕山口七夕ちようちんまつり、山口祇園祭、えび狩り世界選手権大会、湯田温泉白狐まつり、アイトふる山口、日本のクリスマスは山口から

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。